

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
推進校実施報告書

- 1 学校名：埼玉県立秩父特別支援学校
- 2 実施日時：2018（平成30）年11月5日（月）13：00-14：00
- 3 対象：生徒約120名
- 4 派遣パラリンピアン：高橋 和樹 さん
（ボッチャ リオデジャネイロ大会 出場）
- 5 授業内容：講演、実技体験

2018（平成30）年11月5日（月）に、埼玉県立秩父特別支援学校にて、ボッチャの高橋和樹さんの講演と実技体験が行われました。秩父特別支援学校は、「よい、ドン！スクール」に加盟していることから、事務室の脇に東京オリンピック・パラリンピックのフラッグが飾られていました。

「ボッチャの楽しみ方 ボッチャと出会って変わった人生」というテーマで行われた講演において高橋さんは、自身がケガを負った経緯、ボッチャと出会ったきっかけ、そしてリオデジャネイロ大会に出場したときの経験を振り返りながら、自分が生きるうえで大切だと思うことについてお話されました。

高橋さんは、5歳のときに柔道を始め、中学生のときには関東大会で優勝するほどの実力がありませんでした。しかし、高校2年生の夏に、柔道の試合で首の骨を折る大けがをしてしまい、障害を負いました。

それ以降、特にスポーツに触れることもなく10年ほど過ごしていたが、34歳のときに2020年に東京でオリンピック・パラリンピックが開催することが決定したニュースを見て、自分も40歳になる2020年に東京パラリンピックに出場したいと思うようになったそうです。また、テレビのコマーシャルでパラリンピアンの人たちが出ているのも、パラリンピック出場を目指す気持ちを後押ししたそうです。

しかし、実際に何の競技を始めてよいかもわからなかった高橋さんは、色々な競技をやってみた結果、ボッチャにたどり着きました。本格的に競技を始めて3ヵ月後には、初めて県大会に出場しました。しかし、初戦で女性の選手に全く歯が立ちませんでした。そこで、まずは県大会で優勝するという目標をたてました。そこから1年間、ボッチャの練習を重ね、見事、翌年の県大会で優勝することができ、さらに日本選手権でも優勝して日本代表となることができました。そして、日本代表として始めて出場した2016年の世界選手権では準優勝することができ、リオデジャネイロパラリンピックに出場することができました。このようにリオデジャネイロパラリンピックに出場するまではほとんど負け知らずだった高橋さんでしたが、リオデジャネイロパラリンピック後は、日本国内の大会でもなかなか勝てなくなっていました。そこで、なかなか勝てない日が続くなかで、高橋さんは、自分の弱いところ、苦手なところを考え自分自身と向き合いました。そして、苦手なことをなくすことよりも得意なことを伸ばすことが大切だと気づいたそうです。このことを大切にしたことで、それまで好きだったボッチャが更に好きになり、生涯にわたってボッチャと関わっていきたいと思えるようになったそうです。そのため、得意なことを伸ばすように心掛けること、そして、自分が好きなことを見つけて大切にしてほしい、と児童・生徒にメッセージを送っていました。

実技体験では、高橋さんによるルール説明の後、高橋さん対代表生徒、代表生徒同士、そして高橋さんと代表生徒の合同チーム対先生チームの3試合を行いました。元々、少し経験がある生徒が多かったこともあり、高橋さんが投じたボールがジャックボール(的球)にぴたりと着くたびに生徒達から歓声があがっていました。特に、3試合目の高橋さんと代表生徒の合同チーム対先生チームの対決では、代表生徒や高橋さんを応援する声と先生達を応援する声が入り混じり、会場にいる人全員がボッチャに夢中になっている様子でした。

最後に、代表生徒から高橋さんに対して、感謝の気持ちと2020年の東京リオデジャネイロ大会に向けた応援の言葉が送られました。そして、高橋さんからも、ボッチャは誰でも一緒に競い合えるスポーツだから是非やってみてほしいというメッセージが送られました。

6 授業の様子



【 フラッグの展示 】



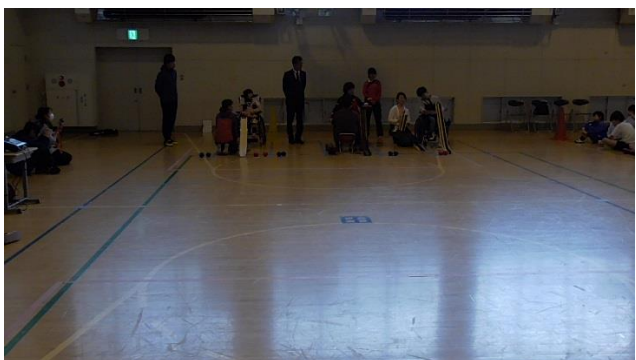
【 講演 】



【 ルール説明 】



【 試合① 】



【 試合② 】



【 代表生徒の挨拶 】